

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.10 No.1



アサザビオトープに誘導する案内板。河北潟周辺広域農道の脇に設置されています。

『アサザビオトープ』に案内板が設置されました

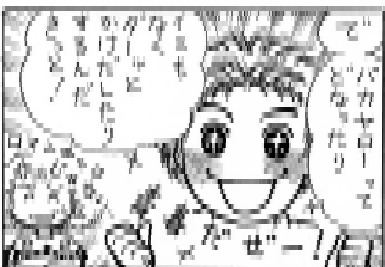
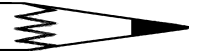
金沢市瑞木団地から金沢競馬場の東を抜けて宇ノ気町までつながる河北潟周辺広域農道の脇に、写真のような看板が立っています。金沢方面から北上すると、津幡漕艇場の入り口の少し手前左手に、農作業道路に沿って設置されています。「アサザビオトープ」の入り口を示す看板です。「水土里ネットかほくがた」と書かれているのは、ビオトープの維持・管理にかかわっている河北潟沿岸土地改良区のことです。

干拓地農業を推進するひとつの主体であり、圃場整備や水路改修等の事業をおこなってきた土地改良区が、ビオトープの看板を設

置したことは、河北潟の環境保全を進める上で、とても重要な出来事です。農水省が農村整備事業等のなかで、農業の多面的機能の発揮を掲げるようになったことなどの変化もありますが、同時に、河北潟湖沼研究所が「野生生物に配慮した農業形態・農地整備」（1999年、河北潟将来構想）を提案するなど、さまざまな「農業と野生生物の共存」を求める声があることが、こうした変化の背景にあります。

今、河北潟の周りには、いくつものこうした看板が設置されています。河北潟の自然と野生生物を取り巻く社会環境が、確実に変化しつつあります（関連記事4P）。（高橋久）

河北潟の沿岸をって行った人々



河北潟の沿岸は、古来より加賀・越中・能登の分岐点であり、この地を経て奥州、都へ向かった人々も数多くいる。今回から時代順にその人達を追ってみる。

大陸からの使者

古代、この地方はコシの国と呼ばれ、古志、高志、越などと表記された。都に近い方から、越前、越中、越後と呼ばれ、現在の石川県は越前に属していた。養老二年(718)、越前から羽咋、能登(今の鹿島)、鳳至、珠洲の四郡を割いて、能登国が立国。天平十三年(741)能登国は越中国に合併(この時期に越中国司だったのが大伴家持)。天平勝宝九年(754)、再び能登国立国。

弘仁十四年(823)、越前国より江沼、加賀二郡を割いて加賀国立国。その後江沼郡から能美郡、加賀郡から石川郡を割き加賀国は四郡となる。室町期、加賀郡が河北郡と呼ばれるようになる(河北は、原則として浅野川以北を指す)。

加賀国が日本で最後の一国建置であり、敷島の大和・八雲立つ出雲・白縫いの筑紫等、国名にまつわる枕詞は無い。

当時、現在の1級国道に相当する官道が禄剛岬まで通じていた(津幡町加茂遺跡にその跡を見ることが出来る。幅員は9mほどで、両側に側溝を備えた立派な直線道路であり、後世のように山裾をたどる曲がりくねった等高線状道路ではない)。そこには現在も狼煙という集落があるが、これは当時、大和の周辺と北九州にしか設けられなかった国営の見張り所のあった遺構にちなむ地名である。沖を通る船の航海の安全を図るため、視界の悪い時、乾燥した狼(山犬)の糞を火の中に入れて、糞中の未消化の骨に含まれるリンが青い火を発するために遠くからでもよく見えたらしい。

このように重要な国営施設が能登に作られていたのは、能登が日本海に突き出た大きな半島で、多くの入り江が天然の良港を作り、大陸からの使者の発着に好条件を備えていたからである。

高句麗(今の北朝鮮付近)、渤海(今の満州)の使者は何度も越の国や能登へ来航しており、その船の修理のため、福良津(富

来町福浦)の大木伐採禁止令が出されたり、使者のための客院が作られたりした。

能登へ到着、漂着した使者達はこの地を通り、奈良、京都を目指した(570年、高句麗の使者が北加賀の豪族道君に天皇を詐称され、贈り物を奪われると言う事件まであった)。

使者達は何を持って来て、何を持ち帰ったのだろうか。聖武天皇神龜五年(728)、渤海使者が「黒てん」の皮300枚を携えた、との記録がある。その他、朝鮮人参、ハチミツなども持ってきた。日本からは、絹織物、米などを持ち帰っている。

「黒てん」の皮は何のため輸入したのだろうか。毛皮は、公式には聖徳太子が制定した冠位十二階のシンボルに使用され、奈良時代では朝廷の一部の人々の権威を誇示する貴重品であった。特に「黒てん」の毛皮は、光明皇后の時代から一般に愛用されるようになり、それを身に付けることは特権階級中の特権階級を意味した。

そのほか、渡来したものには、ラクダ、ロバ、羊、孔雀や豹の毛皮もあった。豹の尻尾は冠位十二階の大仁・小仁の冠に使用すべしと規定されていた。(宮本眞晴・歴史委員会)

【註】冠位十二階はそれぞれ大小に分けられた徳・仁・礼・信・義・智の十二階級で冠の色で区別した。後には衣服も冠と同色にした。

河北潟の新しい名所 - こんな看板が立っています -

河北潟の周りに、河北潟の自然を学んだり、野生生物の保護の取り組みを示す看板が立っています。すべて最近半年ほどの間につくられたものです。そんな、いくつかの看板をご紹介します。



それぞれの看板がある場所



アサザビオトープの案内板。ビオトープに採餌にやってくるカワセミやアサザ群落にすむ小動物の絵が描かれている。下段には、いくつかの生物の探し方が解説されている。

津幡町潟端のアサザビオトープでは、1Pの誘導看板の他に、ビオトープの豊かな生物相を示す看板が設置されました。これは、津幡農林総合事務所(現: 県央農林総合事務所)がビオトープの保守・管理にともなって設置したものです。看板の台木には、県内産の間伐材を用いて、ビオトープのなかにある人工物としてできるだけ違和感のないように工夫されています。小学校の総合学習で利用できるよう、平易な文章で解説されています。

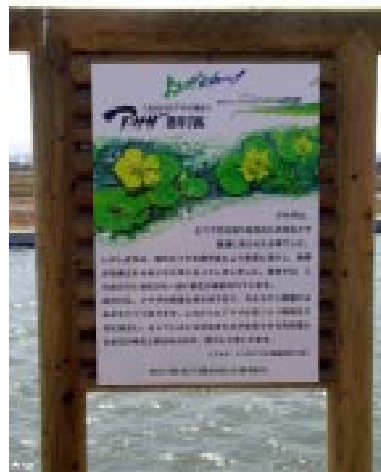
河北潟に流れ込む柳瀬川の中ほどには、「柳瀬川みずべの楽校」の案内板が立てられています。これは、金沢市の河川課が市内の



柳瀬川の「みずべの楽校」掲示板(上)。川の生態系や生物の特徴が図解されている(左)。

いくつかの河川で企画している「みずべの楽校」の取り組みの一環としてつくられたものです。それぞれの川の概要や歴史、生態系と生物相の特徴が解説されているもので、柳瀬川の他にも大野川に流れ込む弓取川にも設置されています。

昨年、アサザ群落の復活が確認された、血の川のほとりには、「よみがえれ! アサザ群落」の看板が設置されました。金沢農林総合事務所(現: 県央農林)が設置したもので、アサザ群落を保全する決意が格調高いイラストとともに述べられています。(編集部)



血の川のアサザ群落の保全を訴える「よみがえれ! アサザ群落」の看板。黄色い花をつけるアサザとともに、葉上にとまるアマガエルやイトトンボが描かれている。

河北潟自然再生協議会有志がブレクリン作戦を実施

4月18日に河北潟自然再生協議会に参加する団体の有志により「河北潟ブレクリン作戦」がおこなわれました。

この取り組みは、毎年6月に実施されている「河北潟クリーン作戦」前のまだ植物が育っていない早春のうちに、水際の植物帯の中にあるゴミを取り除く試みとして実施されたものです。今後のクリーン作戦の実施時期を検討する上で、実験としての試みでもありました。

当日は、北陸ランカースナイパーズの十数名の参加をはじめとして、約20名の有志が馬事公苑裏の湖岸に集まりました。6月のクリーン作戦時には草に被われているためあまり目立っていませんが、湖岸には幾重にもゴミが重なっていました。ゴミがむき出しになっているため、そのひとつひとつを除去するにはそれほど労力はかかりませんでした。ゴミの数が多く、1時間あまりで350袋分を回収しました。湖岸はかなりすっきりとなり、効果的な除去ができたようです。

「河北潟クリーン作戦」本番は、6月6日(日)9:00から開始します。河北潟自然再生協議会に参加する団体や個人が、河北潟の湖岸7地点に分かれて実施します。河北潟湖沼研究所が担当する箇所は、内灘放水路付近と干拓地堤防の内灘寄りです。参加いただける方は、内灘橋(旧内灘大橋)西詰の広場にお集まり下さい。友の会の皆様をはじめ、多くの方のご協力をお願いいたします。

河北潟助成金の切迫

前号でお知らせいたしました、「河北潟研究奨励助成」の切(5/31)が迫っています。応募を検討されている方は、早めにご応募下さい。以下に、助成の内容等について再録いたします。

助成金の額

1件につき10万円を上限とします。

募集件数

3件

助成期間

平成16年6月～17年3月

補助対象経費

- ・河北潟までの往復交通費及び河北潟滞在中の宿泊費
- ・調査地までの移動や調査に必要な車輛、船舶等の借上料
- ・研究に必要な器具、備品や消耗品等

応募の方法

申請書を、河北潟湖沼研究所金沢事務局(〒920-0051 金沢市二口町八58 tel.076-261-6951)まで請求してください。または、ホームページ(<http://kahoku.soc.or.jp>)よりダウンロードできます。応募の締切は平成15年5月31日(消印有効)です。

第36回河北潟自然観察会のお知らせ

いつもの通り、内容濃く実施致したいと思えます。皆様のご参加をお待ちしています。

日時 2004年6月6日(日)午前9:00-
集合地 こなん水辺公園(金沢市競馬場西)

内容 水辺の生物を中心に観察します。

今回は、「河北潟クリーン作戦」が実施されますので、自然観察会に先だて、午前8時よりゴミ拾いを実施したいと思います。ゴミ拾いを手伝っていただける方は、内灘橋(旧大橋)西詰にお集まり下さい。

< 編集後記 >

今号より当研究所歴史委員会の宮本真晴さんの連載が始まりました。宮本さんは、現在、津幡町の町会議員をされていますが、かつてはクイズ王として、数々のテレビのクイズ番組に出場され、クイズグランプリではグランドチャンピオンとなるなど、数々の輝かしい成績を残している方です。河北潟地域の神社の研究など、地域の歴史、民俗にたいへん造詣が深く、毎号楽しい話題を提供いただける予定です。どうぞお楽しみに。(T)

「かほくがた」 VOL.10 NO.1

2004年5月15日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435